気になるニュース わたしの視点

リベラルアーツ、大人も必要

道家経営・法務事務所代表 道家睦明さん

伝える力、児童に実演

7月29日付の飛騨版に「伝える力、児童に実演」という記事が出ていました。高山西高校の生徒が、地元の花里小学校の児童に、ディベートを実演したという内容です。

ディベートとは、あるテーマについて、賛成と反対の立場に分かれて議論する取り組みです。公開で開催される政治討論などもその一つといわれますが、ディベートを反対・賛成の立場に立って論破する、というイメージが強くあります。しかし、ディベートの本当の狙いは、論破することではなく、自分の意見とは違う立場に立つことで、これまでとは違う視点を養うことにあります。その結果として、様々な視点からの情報を収集する能力や、意見を論理的に組み立てる能力、そして意見を明確に伝える能力を伸ばすことが期待できるといわれています。

ネットの普及などにより、人々の情報への接触状況は大きく変わっています。情報メディアもマス型から、ワンツーワン型に変わってきています。そのような恵まれた情報環境の中でも、自分の考えを裏付ける情報には意識が向きやすく、逆に否定する情報には目を向けにくくなるという「確証バイアス」と呼ばれる傾向が強くなっています。近年、横行している詐欺の手口も、思い込みをさせるという意味では、「確証バイアス」を逆手にとっているとも言えるのではないでしょうか。

最近、大学などで「リベラルアーツ」という考え方が拡(ひろ)がり始めています。特定の専門分野に偏らず、幅広い分野を横断的に学ぶことで総合的な知識や思考力を養う、という考え方。自分の経験から判断してしまいがちな固定観念や価値観にとらわれることなく、自由に発想しようという取り組みです。記事に出ていたディベートも、「確証バイアス」に陥ることなく、強制的に反対の視点から考えさせるという点で、「リベラルアーツ」の考え方に近いものです。

記事にあるように、小学生のころから、多様な立場や意見があることを身につけていくことは、今後の人生に大きく役に立つでしょう。それ以上に、凝り固まった考え方を持つ大人の頭にこそ、「リベラルアーツ」の処方が必要ではないでしょうか。

（引用記事は岐阜新聞デジタルの紙面ビューア9日付朝刊最終面に掲載）

どうけ・むつあき 1965年、羽島郡笠松町生まれ。慶応大商学部卒。中小企業診断士、行政書士。広告会社勤務を経て、道家経営・法務事務所代表取締役。県中小企業診断士協会会長。笠松町在住。

高山西高英語ディベート部

伝える力、児童に実演

花里小訪問

幻想風景、来場者引き込む

交流

7月29日付3面
（飛騨地域面）より

ⓒ岐阜新聞